

平成二十八年年度 一般入試 前期日程

(地域デザイン科学部・教育学部・農学部)

「国語(国語総合)」 解答例

第1問

- 問1 ①微妙 ②広範 ③駆使 ④無謀 ⑤契機

問2 翻訳語として日常語を用いるとなると、翻訳する者の意図によってその意味が決められるのではなく、既にその語自体が意味を担っているため、日常語を素材としつつも、その意味とは別の使い方を作り出さなければならぬから。

問3 日常語

問4 抽象語の訳語は、日常語の概念とは縁の遠いところで既に作られたものであり、それをそのまま使ってきた、ということ。

問5 抽象的思考を行うための翻訳抽象語が、完成品として受け入れられてきたがために、ある事柄について思考する際、問いを持つ者も答える者も、翻訳抽象語を用いた途端に使用者の思考が停止し、結論が与えられたかのように見える現象。

問6 抽象的概念(言葉)に合わせて具体的事実を切り捨てるのではなく、事実の方に合わせて、抽象的概念の方を修正または変更するような思考方法を持つべきだと考えている。

## 第2問

問1 ①まぎわ ②ろばた ③へいこう ④そくさい ⑤したく

問2 死者の霊を呼び出して生者と交流する太古の呪術的な世界へと、自分の魂が誘いこまれていくかのように感じることに。

問3 そっくりな別人が死者の霊のふりをして家族を訪ねてくるなどという、非現実的な場面を演ずることは滑稽なので。

問4 祖父母がともに、関原弥之助のお精霊が帰ってきたと信じこんでいるさまを目にして、その聖なる心情を尊重せねばならないと、急に気持ちひきしまった。

問5 別人と知っているながらも、松久三十郎の言動が死んだ兄にそっくりなので、内心驚き、兄の「お精霊」のようにすら感じられてきた。

問6 がむしやらに。(むちやくちやに。むやみに。)

問7 決死の戦闘を間近にしてなお野菊を写生したという関原弥之助の絵心と、画家である自分が戦死者に寄せる気持ちとが、その生死と時空を超えて魂の交流を持ちえたかのように感じられた。

### 第3問

問1 女房達が居続けて、さまざまのとりとめのないことを、思い思いそれぞれに言いあっているのも、とても興味深く思われたから。

問2 どういうものがこの世で一番捨てがたいものかしら。

問3 「いみじ」 品詞名 || 形容詞                      活用形 || 終止形  
「べき」 品詞名 || 助動詞                      活用形 || 連体形  
「あら」 品詞名 || 動詞                      活用形 || 未然形

問4 夢路（夢の中の出逢いの道）

問5 今はもう帝にお逢いすることもできなくなりました。泣きながら寝入って見た夢以外に、いつまたお目にかかることができましょうか。

問6 遙か昔に関係が絶えてしまった男女の仲でも、夢の中では出逢いを邪魔する関守も厳しくはなく、昔の逢瀬の思い出もよみがえることが多いし、死に別れてしまった昔なじみの人でも、夢の中でなら生前の面影をそのままはっきりと見ることができから。